

春日井市地域包括ケア推進状況報告

地域包括ケアシステムの深化・推進 ～誰もが主役 共に支え合う「地域共生社会」の実現～

1 在宅医療及び介護連携

(1) 資源把握

医療機関と介護事業所が連携して支援するため、各機関の支援に関する情報を関係者が活用できるように見える化し、医療介護連携を推進する。
また、訪問診療や認知症診断などの情報を市民に情報発信する。

■ 医療・介護情報のリスト更新及び配信

各医療機関及び介護事業所の一覧に掲載されている事業所の内容変更点を確認、修正してかすがいねっと連絡帳を通じ医療介護従事者に配信。

また、「訪問診療・往診を実施する医療機関」及び「認知症の診断を行う医療機関」、「歯科医院の対応一覧」、「薬局の対応一覧」については、同意を得た機関を市のホームページで公開予定。

(2) 情報共有

医療と介護の支援に関わる多職種が必要な情報を共有し、医療と介護の包括的な支援を推進する。

■ かすがいねっと連絡帳の普及・啓発

市内や近隣市町の医療・介護従事者が情報を共有するツールとして、I I J 電子@連絡帳を導入し、運用。

各団体からの依頼により活用についての研修会に市職員が助言者として出席。

● 利用状況等

	R4年8月	R5年8月
登録患者数	333	525
登録記事数	18,595	25,305
登録施設数	463	553
登録利用者数	830	1,027

● 登録施設内訳

	R5年8月	事業所数	割合
病院・診療所	188	194	96.9%
歯科医院	64	112	57.1%
薬局	59	148	39.9%
居宅介護支援事業所	65	76	85.5%
地域包括支援センター	13	13	100%
訪問介護	24	93	25.8%
訪問看護	26	37	70.3%
その他(※)	127	-	-

※ 通所サービス、障がい福祉事業所、行政等

(3) 医療介護関係者研修

医療と介護の多職種が連携するために必要とする知識習得や関係構築を目的とする研修により、円滑な多職種連携を推進する。

■ 在宅医療セミナー

医療介護従事者を対象に在宅医療の理解を深めるため、在宅医療セミナーを実施。

令和5年7月31日（月） 総合保健医療センター

テーマ：在宅医療における終末期ケア ～食べられなくなったらどうします～

講師：中村 幸伸氏（医療法人つばさ つばさクリニック岡山 理事長）

参加者：57名

■ 多職種連携研修

地域の医療関係者と介護関係者の連携に必要な「顔の見える関係性の構築」を目的に市内4カ所で意見交換会を実施予定。

参加者：医師、歯科医師、薬剤師、ケアマネジャー等

実施日：令和6年1月25日（木） 東部市民センター

2月1日（木） 西部ふれあいセンター

2月8日（木） 総合福祉センター

2月22日（木） レディヤンかすがい

■ テーマ別の多職種連携研修

● 市薬剤師会主催

令和5年11月25日（土）総合保健医療センター 「多職種連携研修会」を開催予定

テーマ：「第9次春日井市高齢者総合福祉計画」について意見交換

内容：ワールドカフェ方式での意見交換

● 市歯科医師会主催

令和6年2月29日（木）「学術講演会」を開催予定

■ 市薬剤師会総会研修会

令和5年5月20日（土）ホテルプラザ勝川

テーマ：「地域における薬剤師の役割」 ～地域でのさらなる活躍に向けて～

参加者：30名

(4) 愛知県入退院調整支援事業

住み慣れた地域で自分らしく最期まで暮らすため、入院機能を有する医療機関とケアマネジャーが入退院支援ルールを策定し、地域に必要な医療介護連携体制やネットワークを構築する。

■ 入退院調整支援事業研修会

愛知県から受託した国立長寿医療研究センターが尾張北部医療圏及び海部医療圏でモデル実施（令和3～5年度）。行政機関、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、医療機関が参加。

■ 暫定入退院支援ルールの試行

入退院調整支援事業研修会で策定した暫定入退院支援ルールを試行し、洗い出された課題からルールを見直す。

医療機関：春日井市民病院・名古屋徳洲会総合病院

事業所：じゃがいも友愛居宅介護支援事業所・ケアプラン彩り
南部ケアプランセンター・鳥居松居宅介護支援事業所

運用期間：令和5年8月1日から10月31日まで（予定）

内容：入退院時の連絡手順、方法、窓口等の明確化

(5) 周知・啓発

在宅医療・介護に関する啓発を行い、住み慣れた地域で最期まで自分らしく生活する地域包括ケアを推進する。

■ 市民向け 在宅医療講座の開催

各団体等からの依頼に応じて出前講座を常時受付。

テーマ：「そこが知りたい！在宅医療・介護・人生会議」

5月22日（月）ロイヤルホーム春日井 参加者17名（職員13名、市民4名）

6月30日（金）石尾台地区社会福祉協議会 参加者23名

8月2日（水）八田東長寿会コーヒーサロン 参加者22名

■ 人生会議に関する啓発の実施

地域福祉課窓口モニターを設置し、啓発。

11月30日「人生会議の日」に合わせ、人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）について11月号広報で周知予定。

■ 在宅医療介護連携推進事業 市民講演会

在宅医療に関する市民への普及啓発を目的に講演会を実施予定。

令和5年11月25日（土） 東部市民センター

テーマ：心に寄り添い、地域で支える ～認知症の人の気持ち～

講師：渡辺 哲弘氏（株式会社きらめき介護塾）

■ エンディングノートの配付

市内の公共施設に設置し、ホームページで市民に啓発するとともにかすがいねっと連絡帳に掲載。在宅医療講座などで紹介。（令和6年1月に改訂予定）

効果と検討事項

- (1) 訪問診療や往診を実施する医療機関等の地域資源情報を市のホームページに掲載することで、市民も活用できるようにする。
- (2) 各機関の協力によりかすがいねっと連絡帳の登録施設が増加している。患者情報を医療・介護関係者でさらに活用できるように協議・周知する。
- (3) 多職種連携研修の幅を広げるため、参加者に看護師や療法士などの医療職を追加し、さらなる医療介護連携を推進する。
- (4) 暫定入退院ルールを試行しており、次年度以降の実施に向けて、地域で統一した情報共有ルールの構築を検討する。
- (5) 昨年度エンディングノートの構成を大きく見直した後、エンディングノートを求める人が増加している。引き続きエンディングノートの目的を周知し、さらに関心を持って活用してもらえるようにしていく。

2 認知症総合支援

(1) 認知症の人にやさしい地域づくり（共生）

認知症に対する理解の促進と地域の見守りネットワークにより、認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活できるまちづくりを推進する。

■ 認知症の理解啓発

● 地域での啓発

- ・ 図書館の事業PRサポート展示「さぼてん！」
- ・ パネル展（市役所市民ホール・総合福祉センターホール）
- ・ 書店での認知症関連本の紹介や市の認知症施策の周知
- ・ JR春日井駅及び市役所内エレベーターのデジタルサイネージ
- ・ 市庁舎の窓を利用したオレンジリングドレスアップ

※令和5年9月19日（火）から22日（金）まで

● 広報春日井9月号での啓発

- ・ 認知症施策について紹介

● 春日井まつりでの啓発

- ・ 「見守り訓練ゲーム」を実施予定

※協力：やさしいまちづくりプロジェクト

■ 認知症サポーター養成講座

認知症について正しい知識を持ち、認知症高齢者やその家族を地域で見守る「認知症サポーター」を養成するため、希望があった学校、企業や地域の団体で実施。

認知症サポーター養成講座実施回数

		令和4年度	令和5年度(～8月)
実施回数(回)	学校	5	0
	その他	27	12
参加者数(人)		1,267	279

■ 認知症の人にやさしい企業サポーターONEアクション研修

認知症の方と接することが多い企業の従業員が、認知症の方への対応を身につけ、さりげなく支援できるようにするための研修。

参加企業：2社

■ 認知症高齢者等個人賠償責任保険事業

認知症高齢者等見守り支援事業利用者が、日常生活における偶然の事故により第三者に対して法律上の損害賠償責任を負った場合に備え、これを補償するための個人賠償責任保険に市が保険契約者として加入。

利用者数：39人（令和5年8月末現在）

■ 若年性認知症の人と家族の交流会

●尾張北部圏域 愛知県認知症医療疾患センター主催

令和5年9月9日（土）レディヤンかすがいにおいて実施。

■ 認知症についての市民シンポジウム

●尾張北部圏域 愛知県認知症医療疾患センター主催

令和5年11月11日（土）岩倉市民プラザにおいて開催予定。

基調講演：「認知症について知ろう

～認知症の人や家族の視点を重視した地域社会を目指して～」

講師：鷺見 幸彦氏（認知症介護研究・研修大府センター長）

■ 介護エッセイ作品募集表彰式・講演会（春日井市制80周年記念事業）

●家族介護者支援センター NPO法人てとりん主催

令和5年11月11日（土）グリーンパレス春日井

講演：「認知症とともに生きる」

講師：丹野 智文（「おれんじドア」実行委員会代表・認知症本人大使「希望大使」）

（2） 早期発見・早期治療（予防）

軽度認知障害や認知症の診断、治療に至っていない高齢者に、適切な治療や支援を提供し、認知症の予防、悪化の防止により、地域で自立した生活の継続を推進する。

■ 認知症初期集中支援チーム(チーム春日井オレンジ)

社会福祉士、保健師とチーム員の専門医で構成する認知症初期集中支援チームを基幹型地域包括支援センターに配置し、毎月1回チーム員会議を開催。

チーム員会議検討事例件数

	令和4年度	令和5年度(～8月)
新規	9	15
継続	11	5

■ 人間ドックの機会を活用した認知機能検査

総合保健医療センターで人間ドックを受診する75歳以上の希望者に、問診による認知機能検査（長谷川式簡易知能評価スケール）を実施する。

実施件数： 740件 実施率33.4%（令和4年4月～令和5年3月実施分）

351件 実施率33.5%（令和5年4月～令和5年8月実施分）

■ 専門職研修会

●尾張北部圏域 愛知県認知症医療疾患センター主催

令和5年5月20日（土）医療・福祉・介護関係者を対象に認知症等の疾患についての研修を実施。

令和5年7月8日（土）医療・福祉・介護関係者を対象に「認知症予防のための睡眠アドバイス」の研修を実施。

効果と検討事項

- (1) 認知症への関心を高めるため、書店や訪れる人が多い公共施設を利用した啓発活動を実施した。共生社会の実現を推進するために認知症に関する正しい知識や理解を深めるられるよう、さらに積極的な啓発活動の工夫が必要である。
- (2) 「認知症サポーター養成講座」の申し込みが減少している。学校への案内時期を変更したり、企業に積極的に案内するなど、あらゆる機会を捉えて周知していきたい。
- (3) 認知症疾患医療センターが行う認知症の方や家族が日頃感じている思いや悩みを話し合える交流会に参加した。引き続き、認知症疾患医療センターや医療機関、認知症地域支援推進員等と協力し、認知症施策を推進していく。

3 生活支援体制整備

■ 地域福祉コーディネーターによる情報提供

- 資源マップ及び社会資源一覧表を作成し、かすがいねっと連絡帳で電子データにより配信。
- 住民主体サービス活動紹介冊子（ViVid）vol.10により、自宅や介護施設のスペースを拠点に行う高齢者等サロン活動を紹介。

■ 高齢者サロンの取組み

- 今年度9か所の高齢者等サロンが新たに立ち上がり、107団体となった。
活動内容：介護予防体操、スマホ・パソコン、畑作業など
- 住民の互助により高齢者サロンの利用者を対象に、軽易な日常生活の困りごとの援助を行う訪問型サービス（ちょっとお助け型）を1団体が新たに実施し、5団体となった。
実施団体：西部地区（1団体）、高蔵寺地区（4団体）
活動内容：ごみ出し、布団干し、電球交換など

■ 住民主体型地域福祉活動の取組み

団体数：17団体

- 孤食を防止し、安心安全な食事と居場所を提供し、地域の交流を深める。
- コミュニティカフェを開催し、多世代の交流を図る。
- 高齢者や障がい者世帯を対象に草取りや木のせん定など困りごとを支援する。

■ 地域ケア会議の取組み

開催件数：24件（令和5年8月末）

内容：高齢者サロン、認知症に対応する取組み、たすけあいパーキングについてなど

効果と検討事項

- (1) 高齢者だけでなく、子どもや障がいのある人など様々な人が交流できる事業や地域食堂など住民主体型地域福祉活動が増加している。引き続き、地域福祉コーディネーターによる地域福祉活動の把握に努め、活動を支援していく。
- (2) 活動の継続が困難となった団体の活動内容を他の団体が引き継いで、活動を継続できた団体があった。また、畑や屋台を拠点とするサロンなど新たな方法での活動が創設されている。

4 介護予防

身近な地域での介護予防の推進

高齢者が歩いて通える地域でのフレイル予防の取り組みを実施する。

(1) 介護予防・生活支援サービス

■ 訪問型サービスDの実施

要支援認定者や事業対象者に対し、住民の互助により通院や高齢者サロンへの移動を支援する取り組みに対し、運営費等を補助。

実施団体 2団体（高森台・石尾台地区（1団体）、東部地区（1団体））

(2) 一般介護予防サービス

■ 口腔機能向上事業の実施

摂食・嚥下機能の低下を早期発見し、要介護状態を予防するため、口腔機能の向上のための教育や口腔清掃の指導などを実施予定。

実施日 令和5年10月12日から12月7日まで（5回）

場 所 総合保健医療センター

■ かすがいいいきき体操の普及

運動機能や口腔機能の低下を予防するため、自宅やサロンでできる介護予防の取り組みとして、かすがいいいきき体操をひろめる会の協力により、令和5年9月5日（日）に健康救急フェスティバルにおいて体操を披露。

また、「かすがいいいきき体操」の動画及びパンフレットを市のホームページで配信した。また、DVDを地域福祉課及び図書館で常時貸出。

(3) 高齢者の保健事業と介護予防等の一体的な実施

生活習慣病・重症化予防とフレイル予防を一体的に実施し促進するため、高齢者に対する個別的支援（ハイリスクアプローチ）と通いの場等への積極的な関与等（ポピュレーションアプローチ）を行う。

令和5年度は、実施地区を1地区から6地区に拡充し、ハイリスクアプローチの取組みについて「口腔指導」に「健康状態不明者等」を追加して実施している。

健康増進課に専従保健師を配置し、保険医療年金課、地域福祉課と協働で実施している。

<令和5年度の取組み>

地区名	ハイリスクアプローチ取組区分	ポピュレーションアプローチ業務委託先
中部地区	口腔指導	医療法人社団喜峰会（東海記念病院） 医療法人三仁会（あさひ病院） 医療法人陽和会 （春日井リハビリテーション病院） 特定医療法人晴和会（あさひが丘ホスピタル）
藤山台・岩成台地区	健康状態不明者等	
松原地区		
坂下地区		
高蔵寺地区		
西部地区		

（取組み内容）

・ハイリスクアプローチ（直営）

個別的支援対象者（要介護認定2以上の者及び介護サービス利用者を除く）を選定し、保健師や歯科衛生士が訪問等で口腔や健康状態の把握に努め、保健指導を実施している。

【個別的支援対象者】

①口腔指導

前年度歯科受診歴がない者について、後期高齢者の質問票にて「口腔機能」の状態が悪い者101名（75～84歳）及び質問票未回答者222名（76～78歳）、計323名に対し送付したアンケートの返信者（97名、30.0%）のうち、「嚥下」や「摂食」の機能に問題がある者37名。

②健康状態不明者等

過去2年間健診や医療受診歴がなく健康状態が把握できない者295名（75歳～）に対し送付したアンケートの返信者（161名、54.6%）のうち「健康状態が悪い」「家族や友人との付き合いが無い」「身近に相談できる人がいない」に該当する者32名及びアンケート未返信者（民生委員調査対象者を除く）70名、計102名。

・ポピュレーションアプローチ（委託）

医療専門職が対象地区の高齢者サロン等へ出向き、フレイルチェックや健康教育等を実施している。

効果と検討事項

- (1) 集団で実施する口腔機能向上事業は、新型コロナウイルスによる中止により、3年ぶりの開催となる。歯科医師会の協力のもと実施し、効果や課題を検証していく。
- (2) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施の実施結果を分析し、医療・保健分野と協働して、高齢者の支援にあたる取組みを検討する。